

## 亜硫酸中毒ノ一例ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/30670">http://hdl.handle.net/2297/30670</a>

實 驗

亞砒酸中毒ノ一例ニ就テ

東京日本赤十字社病院

吉 原 靜 論

本例ハ余ガ洋々醫館在勤中傷害並ニ殺人罪トシテ愛知縣下ニ起レル事件ナリ、治驗例トシテハ粗糲ニシテ諸家一瞥ノ價值ナキモノナリト雖モ唯余ガ鑑定醫ヲ命ゼラレ一再ナラズ法廷ノ人トナリタル聊カ記念トシテ其一實驗例ヲ草シタルモノナリ讀者諸賢幸ニ之ヲ諒セヨ。

患者 原〇き〇〇、二十九才、農業。

既往症。患者生來健ニシテ著患ヲ知ラズ殊ニ脚氣ヲヤミタルコトナシ。

中毒ノ經過。加害者ハ中毒患者ノ夫君ノ兄ニアタリ「財産分配上ノ事

ヨリ常ニ心ヨカラズ思ヒ一度彼等ヲ苦シメント竊ニ殺鼠用亞砒酸團子ノ數

十個ヲ患者ノ井戸中ニ投ゼリ。

亞砒酸團子處方

亞砒 酸 二、五

甘薯燒キタルモノ 四、〇

蕃 椒 末 〇、二五

蜂 密 適宜

メチールヱイオレット 適宜

右百粒トナシ一粒中亞砒酸〇、〇二五ヲ含ム。

實 驗

大正〇年十月七日朝七時半頃患者夫婦並ニ四才ノ幼女ハ該井水ヲ以テ炊キタル朝食ヲ喫セリ幼女ハ食後一時間ニシテ嘔吐セリ、ソノ頃患者ハ頭痛アリシモ嘔吐セズ五時頃ニ至リ始メテ嘔吐セリ禍ナル哉翌日モ尙ホ井水ニ激毒アルヲ知ラズシテ其水ヲ以テ炊キタル食物及ビ湯茶ヲ攝取セリ、八日ハ苦悶ニタエズシテ藥店ヨリ鎮嘔劑ヲ買ヒテ服用セリト云フ、九日未明幼女ハ遂ニ他界ス某醫急性腸加答兒ト診セリ然ルニ翌日葬式ニ招カレシ人々モ亦嘔吐セリ僧侶之レヲアヤシミ必ス井水ニ毒アルノ疑念ヲ起シ試ニ鮒ヲ井戸中ニ投ゼシニ死シテ浮ベリ之レ發覺ノ端緒ナリ。

現病歴。大正〇年十月七日朝食後頑固ナル頭痛アリ夕刻ニ至リ嘔吐數回全身倦怠心悸亢進眩暈口喝甚シ翌日粘膜炎ハ結膜炎眼瞼浮腫鼻加答兒鼻閉塞ヲ來シ口腔及ビ咽頭ニハ炎症性糜爛ヲ呈シ「ナマ唾」ガ頻ニ出シト云フ全身症狀トシテ頑固ナル頭痛ノ外顔面上下肢軀幹等殆ド全身ニ浮腫ヲ生シ

一一一

四日自起立不能トナル患者ノ中毒ハ胃腸型ニ屬スベキモノナランモ一回ノ下痢ヲ生ジタルトナシ、十月十七日頃ヨリ前胸部腰部下腹部ニ腕豆大ノ水泡性發疹ヲ生ジ相癒合シテ一錢銅貨五十錢銀貨大ニ達シ次第ニ膿疱ニ變ジ痂皮ヲ作り痂痕ヲ殘シテ治癒セリ。

**現 症。** 十一月八日入院体格營養不良起立ハ全ク不能ナリ殆ド全身ノ皮膚ハ「ドス黒」ニシテ所謂亞砒酸黒皮症ヲ明瞭ニ見ルヲ得タリ其他足蹠ニ於ケル角質層著シク肥厚シ漸時剝脫ノ傾向アリ握力ハ減少シ（握力計左右四）四肢末端ニ知覺麻痺アリ腓腸筋ノ壓痛腕關節並ニ膝關節ノ厥冷感蟻走樣感覺アリ特ニ下腿ニ於テハ腓骨神經麻痺ヲ來シ内臟馬足ノ像ヲ呈セリ腱反射ハ消失恰モ脚氣ニ似タレト亞砒酸神經炎ニ相當スルモノナリ。

**經 過。** 入院後熱ナク脈膊七十至内外食思進ミ營養次第ニ恢復セシモ十一月下旬ニハ下腿ノ神經痛激シキタメ安眠ヲ妨ゲラレ臥居ヲ轉換スル能

茲ニ興味アルハ患者ハ中毒當時妊娠第五ヶ月ニシテ胎兒ノ運命ニツキテハ少カラズ心痛セリ然レドモ幸ニシテ三月末豫定日ヨリ遅ク健兒ヲ分娩セリ且ツ乳汁分泌モ亦遲延シ妊娠第八ヶ月ニ至リテ漸ク之レヲ見タリ。

ハズ。

**療 法。** 急性症狀去リタル後毒素ヲ体外ニ排泄セシムル目的ヲ以テ傾通並ニ利尿ニ注意シ水薬ニ醋酸加里液ノ大量ト沃度加里ヲ用キ散薬ニ燐性「マグネシア」ニ消化劑ヲ伍セリ神經痛強キ時ハ鉛糖水ノ溫霽法「ヘバトキシ」ノ注射ヲ行ヘリ注射ノ當日ハ常ニ疼痛緩解スルヲ常トセリ十二月二十四日ヨリ隔日毎ニ下腿（「エレクトロ」ヲ腓腸筋ニ他ヲ足蹠ニ貼シ）前膊ニ「デアテルミー」療法ヲ施行セシニ頑固ナル亞砒酸神經炎モ日ヲ追ウテ輕快セリ翌年一月二十三日病癒以來百二十日目ニ初メテ杖ノ助ケニ依リテ步行躊躇タルヲ得タリ神經炎ニ對シテハ「デアテルミー」卓効ヲ有スルモノ、如シ此頃ヨリ毎日入浴セシム二月末日諸症狀去リ患者ハ嬉々トシテ退院セリ。